

音楽アウトリーチ研究会活動について：継承と発展

メタデータ	言語: ja 出版者: 静岡大学教育学部 公開日: 2013-04-15 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 小西, 潤子, 根木, 真理子 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10297/7182

音楽アウトリーチ研究会活動について

—継承と発展—

音楽教育講座 小西 潤子 根木真理子

はじめに

「0歳からのクラシック」(平成16年8月、静岡岡音楽館 AOI との共催)をきっかけとして平成17年4月発足された静岡大学教育学部音楽アウトリーチ研究会(静岡大学教育学部音楽教育講座主催)の活動も、早4年が過ぎた。この間、学校や公民館など地域のニーズに応えて、学生主体の企画運営による学外コンサート等を中心に行ってきた。なかには1年次から4年次まで活動に参加したり、またこの活動を卒業研究としてまとめたりする学生が出てきたという実績もあがっている。研究会運営面でも先輩から後輩へとノウハウが継承され、学生の主体性が一層高まった感がある。その一方で、完全な学生主体による部活動とは異なって、担当教員が依頼先と学生との仲介役になったり、学生からの相談や演奏指導を行ったりするなど、チュートリアル的に学生の演奏技術向上を背後から支える仕組みも保持している。常設の窓口をもつ神戸女学院大学などと比べると必ずしも恵まれた条件にあるわけではないが、本研究会の活動を通して地域社会と学生とがつながり、着実に学びと技の習得が発展してきたといえる。

本報告は、平成21年度の活動のうち、3月20日(土)大学会館でのコンサートを除く計6公演の内容について、参加学生が自主的に作成した活動報告書をもとに整理したものである。活動報告書には、演奏会終了後に参加学生が書きとめた感想や反省点などの生の声が掲載されている。本報告では、それらをもとに学生が何を学んだかという観点から個々のアウトリーチ活動を内容的に整理・分析した。

1. エスコートタウン 静清 ロビーコンサート

日時：平成21年6月21日(日)14時00分～

場所：エスコートタウン静清(〒420-0821 静岡市葵区柚木90-1)

対象：年齢80歳前後の脳梗塞・認知症患者

留意点：曲目にお年寄りが楽しめそうな童謡を交えつつ、クラシックも加える。

編曲を作曲科の人に依頼する。

初出演のリコーダーオーケストラ・アカペラを加える。

プログラム：

リコーダー・アンサンブル(ソプラノ、アルト、テナー、バス)

《カバレリアルスティカーナ「間奏曲」》

作曲 マスカーニ

《草競馬》

作曲 フォスター

《荒城の月》

作曲 滝 廉太郎

《操り人形の葬送行進曲》

作曲 グノー

《Summer(映画『菊次郎の夏』より)》

作曲 久石 譲

アカペラ合唱

《テルーの唄》

作曲 谷山 浩子

《浜辺の歌》

作曲 成田 為三

《赤とんぼ》

作曲 山田 耕筈

トーンチャイム演奏

《茶摘み》

作曲 文部省唱歌

《見上げてごらん夜の星を》

作曲 いずみたく

《ふるさと》

作曲 岡野 貞一

メンバー：

企画 小嶋 遼(芸音2年)、澤里明日香、古澤孝祐(芸音3年)

リコーダー演奏

ソプラノ：大朋絵里、塩島優季(芸音3年)

アルト：小澤りお、古澤孝祐、村野早矢香(芸音3年)

テナー：西 将史（芸音3年）、吉田亮太（芸音2年）

バス：小嶋 遼（芸音2年） 笹瀬奏子（芸音1年）

アカペラ合唱

近藤 望、重富 絵梨香（芸音1年）、松井芳枝（教音1年）

金子 奈那子、本多有希（教音2年）

寺田杏子、平塚結季（芸音3年）、大長 実穂 澤里 明日香（教音3年）

トーンチャイム演奏

長澤 咲（芸音1年）、海野 裕美子、露木 香、松井芳枝（教音1年）

小嶋 遼、吉田亮太（芸音2年）、金子 奈那子、篠崎 文（教音2年）

大朋絵里、塩島優季、寺田杏子、古澤孝祐（芸音3年）

学生の学び

発見・気づきの力：

- ・ 聴き手の存在…聴き手がいてこそ音楽が成り立つことを再確認。
- ・ 対象者の違い…対象が小さい子どもではなくお年寄りの方だったので心配だったけれど、とても感動していただけて嬉しかった。
- ・ 場の違い…エスコートタウン静清での演奏会は初めてだった。
- ・ 魅力の発見…今回初めてアウトリーチに参加して、魅力がわかった。人に喜びや楽しさを与えるアウトリーチの魅力を積極的に広報すべき。

技術力：

- ・ 準備…トーンチャイムにつけた印の色が薄く見えづらかった。
- ・ 練習…アカペラとリコーダーオーケストラ初の演奏会にしてはよい出来だったが、練習を積み重ねて完成度を上げたい。
- ・ 技術…リコーダーのピッチを合わせたほうがよい。トーンチャイムのメロディーはしっかり鳴らした方がよい。
- ・ 解釈…演奏後、お年寄りから「心を何に例えますか」と質問があった。表面的な演奏をせず、自分の考えを持てるぐらい深く取り組むべき。

コミュニケーション力：

- ・ 接客…施設訪問により、言葉遣いや丁寧な接客態度を学ぶことができた。
- ・ 演奏の進め方…楽器紹介は実際に音を鳴らすべきだ。
- ・ 演奏時間とナレーションの工夫…聴き手に合わせた工夫が必要。
- ・ 選曲…1曲あたりの演奏時間が長くなりすぎないように、短い曲を組み合わせるのもよい。《ふるさと》や《赤とんぼ》など、お年寄りの方が知っている曲を多く選ぶなど対象者に合わせた選曲が必要。『《荒城の月》の主題による変奏』のリコーダーが面白かった。
- ・ 交流…演奏、お年寄りとの交流がとても充実していた。
- ・ 感動…アカペラが上手で感動。練習を頑張ってきて良かった。お客様に気持ちが伝わって嬉しかった。童謡を演奏しているときお年寄りの方が口ずさんでくれて、とても感動。もらい泣きしそうだった。

チーム力：

- ・ 協調性…会場の準備や片づけなど、みんなで協力した。
- ・ 全員参加…最後にみんなで《ふるさと》を合唱したのがよかった。
- ・ 出合い…新しいメンバーがたくさん参加した。顔合わせをもっと早くして、全員が全員の顔と名前を分かっていたほうがよい。
- ・ 欠席・遅刻…個人で完成させる音楽ではないので、遅刻や欠席が迷惑であることを一人一人が自覚すべき。無断欠席したりする人が多かった。
- ・ リーダーシップ…誰かがリーダーシップをとることは必要だが、役割分担によってリーダーの負担軽減にもなり、集団としての質も向上する。

コンサートに聴衆は不可欠であるのは、聴衆の側からするとごく当たり前のことである。ところが、音楽を発信する側の学生はしばしば自らの技術向上に手一杯となりがちになる。コン

サートホールとは異なり、演奏者と聴衆とがお互いに顔の見える距離で行うアウトリーチの演奏会の場合、双方が互いの存在を意識せざるを得ないし、反応も直に伝わってくる。小さい子どもを対象にする場合、学生が「上から視線」で演奏しなければいけないこともあるだろうが、人生経験豊富な高齢者の中には、感動をストレートに表現する方もいれば未熟な学生たちを温かく見守る方も含まれる。そうした音楽を通じてのコミュニケーションが、明らかに学生にとっての励みになり、聴衆の側に立った演奏を考えるきっかけを提供している。相手に目を向け、相手の立場を考えて行動することは、演奏家にとってのみならず将来教員をめざす学生にとって極めて重要な資質であり、社会人としても不可欠である。アウトリーチ活動が、専門の技を介して人間力を高める一助となっていることは間違いない。その一方で、学生たちは自らの技術不足を冷静に見ている。問われることによって「解釈」の重要性に目を向け、また「人前」を意識することが技の向上へのモチベーションを高めることへとつながっている。

また、学生は「個人で完成させる音楽ではない」とアウトリーチ活動の集団性を強く認識している。音楽における技術向上は個人練習が土台となるため、合奏や合唱など集団で音楽を作り上げる経験を積んでいない学生も多い。そうした学生にとって、アウトリーチ活動は協調性を養う場ともなっている。学校教育現場でクラスの児童生徒をまとめていく際には、こうした自らの集団経験が活かされるであろう。また、学びそのものが集団による点も、アウトリーチ活動の特徴である。吹奏楽や合唱など音楽系のサークル活動もあるが、集団という点では共通しているが、サークル活動の場合は大きな目的が団員の娯楽や自己充足にある。学生の自主性が尊重されているとはいえ、静岡大学アウトリーチ研究会の場合は責任主体が音楽教育講座であり、教員の監督下におかれているという点でチュートリアルに順ずる形態ともいえる。授業として単位が認められるわけではないが、ある意味で授業の延長上にあるという点でもサークル活動とは一線を画するといえる。

2. 東豊田幼稚園 夏祭りのフィナーレ

日時： 平成 21 年 7 月 11 日（土）17 時 10 分～17 時 30 分

場所： 東豊田幼稚園 園庭（静岡市駿河区池田 492-2）

依頼者： 芳賀 由利子（PTA 文化部長）

対象： 幼稚園児、またその父兄

趣旨： 幼稚園の夏祭りのフィナーレをにぎやかにかざる。フィナーレにふさわしい演奏をし、楽しんでいただく。

留意点： 幼稚園での演奏なので、前回のエスコートタウンでの選曲ミスを活かし、幼稚園児が知っていそうな曲を選曲した。
屋外での演奏である。

プログラム：

リコーダー・アンサンブル（ソプラノ、アルト、テナー、バス）

《ピタゴラスイッチ》

作曲 栗原 正巳

《勇気 100%》

作曲 馬飼野 康

《夢をかなえてドラえもん》

作曲 黒須 克彦

《崖の上のポニョ》

作曲 久石 譲

サクソフォン・アンサンブル（ソプラノ、アルト、テナー、バス）

《アンパンマンメドレー》

作曲 馬飼野 康二・三木 たかし

《ジブリメドレー》

作曲 久石 譲

メンバー

企画 西 将史、古澤孝祐（芸音 3 年）

リコーダー演奏

ソプラノ：大朋絵里、塩島優季（芸音 3 年）

アルト：服部将也（芸音 4 年）、高山智江（芸音 1 年）

テナー：古澤孝祐（芸音 3 年）

バス：小嶋 遼（芸音 2 年）笹瀬奏子（芸音 1 年）

サクソフォン演奏

ソプラノ：西 将史（芸音3年）
アルト：山田ななみ（芸音2年）
テナー：中澤 玲子（芸音3年）
バス：松下 愛子（芸音3年）

学生の学び

子どもを知る力：

- ・ 触れ合いの機会…地域の人や子どもたちと近い距離で、一緒に楽しみながら演奏会した。
- ・ 音楽の楽しさの共有…幼稚園児の知っている曲を演奏した。子どもたちが曲にあわせて歌ったり踊ったりしてくれたので自分も自然と笑顔になり楽しんで演奏できた。
- ・ 子どもの目線に立つ…ナレーションがよかった。学生が子どもたちの輪の中に入って一緒に歌ったり踊ったりできるとよい。少し楽器に触れてみる時間もあるとよかった。長時間歌の無い曲を演奏すると、子どもたちが途中で飽きてしまった。ドラえもんの歌が昔と違うなど、ジェネレーションギャップがあった。

技術力：

- ・ 緊張した。
- ・ 子どもの音楽能力への対応…アニメの主題歌等、テレビで放映されている調性で演奏しないと子どもの声の高さに合わず、途中で歌えなくなる。幼稚園児が歌うにはテンポが速かったのも、少し遅めにしなければならない。適切な編曲による楽譜が出版されていないので仕方ない面もあるが、アニメの歌等、子どもと一緒に歌うときにメドレーで演奏すると混乱を招く。メドレーをする場合には、テレビで放映されている編曲を断続的に続ける形式にする。幼稚園ぐらいの子どもは、自分がやりたい、自分にもできるというのを周りの人に見てほしい時期。そういった欲求に応じて子どもの成長を促す機会とするために、子どもと一緒に歌ったり踊ったりして参加できる選曲にする。
- ・ 野外演奏の特性を知る…風が強いとリコーダーの音が鳴らなくなったり、楽譜が飛ばされたりする。リコーダーの演奏が屋外は不向きなことが今回わかった。

段取り力

- ・ 当日にリハーサルをやるのは遅い。問題点を探すために2週間前から早めに取り組むこと。
- ・ 自分自身の準備・片付けを素早くやる。時間に余裕を持つ。
- ・ 曲を決める段階で、正確な演奏時間を計っておくこと。
- ・ 練習は自信を持てるまでやること。

本公演では、学生が音楽をめぐる幼稚園児の実態を知るきっかけとなった。子どもの声域やテンポ感の特徴を知り、メドレーなど自分たちにとっては当たり前な演奏形態が子どもには受け入れがたいことなど、直接子どもたちと関わらないとわからないことに気づいた。また、野外公演を体験したことも有意義であった。一方、幼稚園児が対象であること、演奏上さほど高い技術が求められない作品であったこと、比較的少人数かつ活動への参加回数の多いメンバーによる編成であったことも相まって、演奏時間を甘く見たりリハーサルを当日に設定したりしたことなど、段取り不足を実感することになった。これは、まだ演奏技術重視の風潮が残っていることに端を発する。場を作ることへの段取りと演奏技術を披露するための準備とは、切り離して考える必要がある。イベントにたとえるならば、アニメキャラクター・ショーでも演歌歌手のショーでも準備する内容が異なるだけであり、段取りを決めておかねばいけないのは同じことである。また、幼稚園児だからといって演奏の練習を怠ると、本番で緊張することになる。幼稚園児であるからこそ、演奏する側にも余裕が必要となるわけであってむしろ綿密な打ち合わせや練習は不可欠となる。以上のように、「幼稚園児がかわいかった」「自分も楽しんで演奏できた」という印象だけに留まらず、ステップアップにつながる反省点が自らの言葉として出されたことそれ自体が、学生にとって大変有意義な学びとなったことを示している。

3. 来てこ de 夏休み ロビーコンサート

日時：平成21年8月2日（土）12：00～13：00

場所：静岡市健康文化交流館来・て・こ 1階ロビー（静岡市駿河区）

対象：子ども～一般 約60名

趣旨：子どもたちと一緒に歌ったり、踊ったり、演奏したりして音楽を楽しむ。
子どもたちが楽しめるような企画や演奏を研究、工夫する。

プログラム：

リコーダー・アンサンブル

《ピタゴラスイッチのテーマ》

作曲：栗原正己

「カバレリア・ルススティカーナ」より《間奏曲》

作曲：P.マスカーニ

《おもちゃの兵隊の行進曲》

作曲：R.イエッセル

《海に見える街》～魔女の宅急便より～

《となりのトトロ》

《さんぽ》～となりのトトロより～

作曲：久石譲

トーンチャイム合奏

《ハイ・ホー》

作曲：F.チャーチル

《星に願いを》

作曲：L.ハーライン

《きらきら星》（トーンチャイム体験）

作曲者不詳

合唱（歌って踊ろう！）

《おもちゃのチャチャチャ》

作詞：野坂昭如 作曲：越部信義

《大きな栗の木の下で》

作詞・作曲者不詳

《ドレミのうた》

作詞：ペギー葉山 作曲：R.ロジャーズ

メンバー

企画 寺田杏子（芸音3年）、小嶋 遼（芸音2年）

トーンチャイム演奏

舟本あゆみ、宮本啓（芸音4年）、小西由希子（教音4年）、小澤りお、中村友紀、西将史、古澤孝祐（芸音3年）、小林泉美、澤里明日香、竹中康介（教音3年）、斉藤淳華、篠崎文（教音2年）

リコーダー演奏

ソプラノ：大森静香（芸音4年） アルト：大長実穂（教音3年）、

テナー：松下愛子（芸音3年） バス：服部将也（芸音4年）

合唱

上記全員

学生の学び

子どもに働きかける力：

- ・積極的な対応…子どもたちの目線で考えるのは難しかったが、子どもたちが楽しめるプログラムを考えた。おめんや小道具、歌詞を作って楽しい雰囲気づくりをした。客席も子どもたちが参加、体験しやすいようにレイアウトした。
- ・反省を活かした工夫…トーンチャイム体験、手拍子や踊りなど子どもたちが一緒に参加できる工夫をした。リコーダーやトーンチャイム演奏は、飽きないようになるべく1曲が短くなるようにした。
- ・新たな課題…演奏会の前半から子どもたちとのコミュニケーションを十分にとれるとよかった。トーンチャイム体験でメロディーと一緒に演奏するのは難しかった。

技術力：

- ・技術向上…週1回の練習でも安心して本番を迎えられた。もっと自主練をしたほうがよかった。歌では、発声練習を取り上げるべき。

段取り力：

- ・場の把握…会場の広さをきちんと把握できていなかった。

- ・日程調整…早めに練習に取りかかったが、練習日程やリハーサルが遅れギリギリまでの変更があった。練習の時間帯がちょうど行きやすく集まる回数が多く、じっくり取り組めた反面、全員集まることが少なかった。みんなそろえば、練習回数を少なくしてもよい。
- ・練習中に何もしない時間があるので、テキパキと進めるとよい。

チーム力：

- ・ディスカッション…練習やリハーサルなどではみんなで意見を出し合えた。
- ・学年の枠を超える…学年関係なく楽しく話したり、練習できたりした。
- ・一体感…みんなで作ったという一体感を感じた。練習に遅れないように心がけたい。

東豊田幼稚園での経験を活かし、子どもに積極的な働きかけをする工夫が見られ、段取り力も向上した。その中で、次へのステップアップを促すべき新たな課題が明らかになった。しかも、学年の枠を超えたディスカッションを行い、一体感を味わえる結果となった。ただ、メンバーには1年生が含まれていなかったことが、少し残念ではある。1回1回の学びが、次の世代へと継承され発展していくことが望ましいのは言うまでもない。

4. 留学生日本語弁論大会コンサート

日時：平成21年10月18日（日）14：30～16：00

場所：グランシップ 910 会議室（静岡市駿河区）

対象：弁論大会参加者など

趣旨：留学生に日本の童謡を紹介し、その良さを伝える。

プログラム：

アカペラ合唱

《花》	作詞 武島羽衣	作曲 滝廉太郎
《椰子の実》	作詞 島崎藤村	作曲 大中寅二
《里の秋》	作詞 斎藤信夫	作曲 海沼実
《赤とんぼ》	作詞 三木露風	作曲 山田耕筰

（編曲 信長高富）

メンバー

企画 寺田杏子（芸音3年）、澤里明日香、大長実穂（教音3年）

合唱 安田絵美（芸音4年）、小西由希子（教音4年）、寺田杏子（芸音3年）、澤里明日香（教音3年）、金子奈那子、西場久珠（教音2年）、重富絵里香（芸音1年）、海野裕美子 露木香（教音1年）



写真1 留学生に日本の歌を披露する

学生の学び

応用力：

- ・場に応じた選曲や進行…外国人の方々への関心を促すよう有名な日本の歌を選曲し、作曲家や背景、アウトリーチ活動について、適切な説明した。
- ・11月予定の「来てこ自主コンサート」と同じ曲目を選択し、出演者の負担減と練習の成果確認の場とした。

演出力：

- ・髪型について指示がなかったため、表情が暗くなってしまった。姿勢、楽譜の持ち方等にも気を配るべき。顔の表情もまだかたいので、普段から笑顔で歌えるよう心がけて練習したい。
- ・最初のナレーションが長すぎた。

段取り力：

- ・プログラムと出演者の確定が遅かった。依頼者と連絡をとり、演奏時間等の詳細を出来る限り早く把握する
- ・ビデオ撮りをメンバーで行わず、会場スタッフにお願いした。

技術力：

- ・練習時間の確保…もっと（個人、パート）練習をして、より質の高いアカペラをしたい。練習不足で全体の音を客観的に聴く余裕がなかった。
- ・技術向上…アカペラだけだったので、いつも以上音程に注意した。ブレスのときなど、もっと周りを意識しながら歌いたい。

チーム力：

- ・初めて合唱、アカペラに参加し、とても楽しかった。練習の時から雰囲気がとても良い。学年に関係なく指摘や提案ができるのがよい。

本公演では場に応じた対応を心がけており、学生の応用力が身についたことがわかる。演奏技術への反省点も多く出されている一方、演出の工夫の必要性も言及されており、演奏一辺倒であった頃に比べると聴衆に対する意識が一層高まっていることがわかる。聴衆を意識することが、かえって演奏技術の向上に対するモチベーションとなる。その意味で、多くの場を踏むことが学生にとっては望ましいといえる。

5. 中島児童館演奏会

日時： 平成 21 年 10 月 24 日（土） 14：30～15：00

場所： 静岡市中島児童館（静岡市駿河区）

対象： 子ども～一般 約 70 名

趣旨： 四季の童謡やトーンチャイムの音の響きを楽しんでもらう
アウトリーチの活動をより多くの方に知ってもらう

プログラム：

- | | | | |
|-----------|---------|----|------|
| アカペラ合唱 | 《花》 | 作曲 | 滝廉太郎 |
| トーンチャイム演奏 | 《夏の思い出》 | 作曲 | 中田喜直 |
| トーンチャイム体験 | 10 分 | | |
| トーンチャイム演奏 | 《村祭り》 | 作曲 | 不詳 |
| 合唱 | 《紅葉》 | 作曲 | 岡野貞一 |
| | 《冬景色》 | 作曲 | 不詳 |
| 全体合唱 | 《故郷》 | 作曲 | 岡野貞一 |

メンバー

企画 寺田杏子（芸音 3 年）、澤里明日香（教音 3 年）

司会 澤里明日香（教音 3 年）

合唱 安田絵美（芸音 4 年）、小西由希子（教音 4 年）、寺田杏子（芸音 3 年）、

澤里明日香（教音3年）、金子奈那子、西場久珠（教音2年）、近藤望、重富絵里香、長澤 咲（芸音1年）、海野 裕美子、露木 香（教音1年）
トーンチャイム演奏 大森静香、服部将也、舟本あゆみ、宮本啓（芸音4年）、小西由希子（教音4年）、大朋絵里、塩島優季、（芸音3年）、西 将史、古澤孝祐、村野早矢香（芸音3年）、笹瀬奏子（芸音1年）、高山智江（芸音1年）



写真2 子どもたちの前での合唱

なお、本公演に際しては学生からの感想・反省を回収していない。

6. 来・て・こ自主コンサート

日時： 平成21年11月7日（土）14:00 開場 14:30～開演

場所： 健康文化交流館 来・て・こ 3Fホール（静岡市駿河区）

対象： 子ども～一般

趣旨： 今年度立ち上げたリコーダー・アカペラを加え、今年度の集大成になる演奏会であり、音楽科だからこそできる教育的価値のある演奏会を目指す。
地域の方に音楽の素晴らしさを伝え、音楽の楽しさを共有する。

プログラム：

<第1部> モーツァルト特集 30分

ピアノ連弾 歌劇『フィガロの結婚』より《序曲》

リコーダー 《弦楽五重奏曲 第2番 ハ短調》より第4楽章
《アイネ・クライネ・ナハトムジーク》全楽章

<第2部> 童謡でめぐる四季

合唱	《朧月夜》	作詞 高野辰之	作曲 岡野貞一
	《かたつむり》	作詞作曲 不詳	
	《紅葉》	作詞 高野辰之	作曲 岡野貞一
	《冬景色》	作詞作曲 不詳	
	《ふるさと》	作詞 高野辰之	作曲 岡野貞一

（編曲 小阪恵一）

アカペラ合唱 《花》 作詞 武島羽衣 作曲 滝廉太郎

《椰子の実》 作詞 島崎藤村 作曲 大中寅二

《里の秋》

作詞 斎藤信夫 作曲 海沼実

(編曲 信長貴富)

トーンチャイム演奏 《どこかで春が》《春が来た》 作曲 草川信、岡野貞一
《夏の思い出》作曲 中田喜直
《村祭り》作曲 不詳
《たき火》《雪の降る街を》作曲 渡辺茂、中田喜直

練習・リハーサル日

練習日 9月18日(金) 25日(金) 29日(火) + 10月空きコマ

リハーサル 10月18日(日) 午前 2部のみ 午後：弁論大会演奏会
24日(土) 午前 1・2部 午後：中島児童館演奏会
31日(土) 来・て・こ 18:00～21:30(最長)
11月4日(水) E201 5コマ後

メンバー

企画 澤里明日香、大長実穂(教音3年)、寺田杏子、西 将史、古澤孝祐(芸音3年)、
小嶋 遼(芸音2年)、金子奈那子、篠崎 文、西場久珠(教音2年)、笹瀬奏子(芸
音1年)

司会 第1部 平塚結季(芸音3年) 第2部 小林泉美(教音3年)

リコーダーオーケストラ 大森静香、服部将也、安田絵美、宮本啓(芸音4年)、大朋絵里、
塩島優季、西 将史、古澤孝祐、村野早矢香(芸音3年)、小林泉美、大長実穂、林
秀憲、平尾卓也(教音3年)、小柳津奏歩、小嶋 遼、吉田亮太(芸音2年)、金子奈
那子、堤 夏紀、西場久珠(教音2年)、笹瀬奏子、高山智江(芸音1年)

アカペラ・合唱 安田絵美(芸音4年)、小西由希子(教音4年)、杉村真里奈、寺田杏子、
平塚結季(芸音3年)、澤里明日香(教音3年)、山崎綾、丸山恵璃(芸音2年)、金
子奈那子、西場久珠(教音2年)、重富絵里香、近藤望、長澤咲(芸音1年)、海野裕
美子、佐野有沙、露木香(教音1年)

トーンチャイム 大森静香、服部将也、舟本あゆみ、宮本啓(芸音4年)、大朋絵里、塩島
優季、村野早矢香、西将史、古澤孝祐(芸音3年)、大長実穂(教音3年)、小嶋 遼
(芸音2年)、堤 夏紀(教音2年)、笹瀬奏子、高山智江(芸音1年)

ピアノ連弾～

小柳津奏歩、小嶋遼(芸音2年)



写真3 リコーダーアンサンブル

学生の学び

応用力：

- ・対象者に合わせた選曲…昨年度ご年配の方が多かったため、ご年配の方でも楽しんで頂けるように童謡を取り上げた。その際、出演者自身教員を目指す者として知っておくべき曲目を選択し、自身の教養を高めるきっかけとした。子どもでも楽しめるように、2部のナレーションをストーリー性のあるものにした。
- ・演奏技術の応用…今年度立ち上げたアカペラとリコーダーオーケストラの演奏をプログラムに取り入れた結果、個々人の成長につながった。
- ・定員に達したところで申し込みを終了したため、当日のキャンセルにより空席が目立った。

段取り力：

- ・計画…練習日やリハーサルは1ヶ月前に、当日の流れ等も早めに連絡。リハーサルの段取りを企画で話し合い、企画全員が共通の理解をもつ。そのためにも企画の集まりを増やす。
- ・リハーサルとステージ…全曲通しリハをもっと早く行う（夏休み明けでもよいのでは）。ホールでのリハーサルは1週間前では遅く、2回ほしい。ステージの進行表をもっと細かく作成し、企画で打ち合わせておく。
- ・配分…トーンチャイムとリコーダーの掛け持ちが大変だった。

チーム力

- ・組織…全体を把握する総括を立て、誰がトップで問い合わせ先がどこか分かるようにすべき。
- ・練習欠席者への対応…毎回欠席者の確認をして欠席数が多い者には個人的に責任者が連絡を取る等して、全員が出席しようとする雰囲気を作るべき。
- ・企画内で仕事を分担し、近隣の広報活動行った。

10月の留学生日本語弁論大会コンサートにおいて、本演奏会を意識した選曲を行うなどの準備を進めてきたにも関わらず、学生からは段取り力の不十分さを訴える声が聞かれている。新学期早々の10月から11月にかけては「文化の日」を挟むここともあって、外部のイベントも多いが、往々にして学生の集まりがよくなく練習の日程調整が難しい時期でもある。しかし、学生たちなりにその解決案を出そうとしていること、また大人数での演奏会では統括や企画の結束と作業分担の大切さに気づいていたことは大いに評価できる。このように学生の関心が演奏から組織運営にまで向けられるようになったことは、アウトリーチ活動を行う上で必要な力が何であるかを経験の蓄積によって理解し、身につけてきていることを示している。

7. 来・て・こ自主コンサート・アンケート集計

「来・て・こ自主コンサート」では、来場者にアンケートを記入してもらった。詳細な分析は次の機会に譲るが、概ねの回答結果からは来場者層は近隣の中高年層と子ども連れが多く、若さ溢れる学生たちが童謡など親しみのある曲を連弾やリコーダーアンサンブルなど日常的に触れる機会の少ない合奏、合唱形態で演奏されていることに対して好感がもたれていること、リピーターもおり将来教員をめざす学生に対する期待の声が聞かれることなどがわかる。以下、参考までにその単純集計結果を掲載する。

[1] 性別・年齢

男（5人） 女（24人） 無回答（18人）

- ①10歳未満（0人） ②10代（1人） ③20代（2人） ④30代（6人）
⑤40代（9人） ⑥50代（6人） ⑦60代（16人） ⑧70歳以上（7人）

[2] 居住地

- ①葵区（16人） ②駿河区（23人） ③清水区（3人）
④その他（5人） ・島田市 ・富士宮市 ・藤枝市

[3] 本日の演奏会について

1、演奏の感想

- ①非常に良い（28人） ②良い（16人） ③普通（0人） ④悪い（0人） ⑤非常に悪い（0人） 無回答（3人）

<理由>

- ・リコーダー演奏は初めてでとても良かったです
- ・3才の娘も飽きずに聞けた
- ・地域に身近で楽しめました
- ・親しみやすく楽しませていただきました
- ・さわやかな音楽会でした
- ・家族のための…。全員のチームワーク
- ・楽しかったです
- ・さすが音楽専攻です
- ・合唱が美しい声で特に良かった
- ・色々あってよかったです
- ・馴染みのある曲ばかりで楽しむことができた
- ・選曲が良かった（誰もが聞いた事のある名曲はやっぱりいい）
- ・若々しく元気な演奏

2、気に入った演奏様式（複数回答可）

- ①ピアノ連弾（31人） ②リコーダー（28人） ③アカペラ（23人）
④合唱（33人） ⑤トーンチャイム（31人） ⑥全体合唱「故郷」（30人）

<具体的に気に入った演目>

- ・やしの実、もみじ、村祭り
- ・全部です
- ・おぼろ月夜。自然な曲想で合唱に向いている。ソフトな歌である。
- ・大勢で演奏すると深みが出ますね
- ・かたつむり
- ・フィガロの結婚、リコーダー五重奏、アイネ・クライネ・ナハトムジーク
- ・かたつむりがおもしろい
- ・（トーンチャイム）初めて聴きました。すてきな音色ですね。
- ・フィガロの結婚（曲の大胆さが男性ピアノ連弾にピッタリ。他にもう少し聞きたかった）
- ・第2部はナレーションが入ってストーリー風になってる所が、ただ聞くよりもとっても良かった
- ・里の秋
- ・懐かしかったです。どの曲も小学校の時に習ったのに、娘たちは「知らない〜！」と淋しいですね。
- ・アイネ・クライネ・ナハトムジーク
- ・どれもすばらしかったです
- ・花、弦楽五重奏曲
- ・トーンチャイムは初めて聞きました
- ・最後のふるさと
- ・どの曲も親しみやすくて良かったです
- ・トーンチャイムの音色は良かったです
- ・アカペラ、合唱、トーンチャイムの編曲がよかったです
- ・村祭り
- ・ピアノ連弾
- ・夏の思い出、もみじ、雪の降る街を
- ・私達の年令ですと童謡がとても良いです

3、演奏会情報入手先（複数回答可）

- ①チラシ・ポスター（11人）（場所：来てこ・小学校・中央図書館）
②友人・知人の紹介（10人） ③静岡大学のホームページ（0人）
④広報（17人）
⑤その他（10人） ・職場・受付より・孫の学校・イベント情報・施設

4、来場の理由（複数回答可）

- ①友人・知人に勧められたから（10人）
②会場が近かったから（14人）
③無料だったから（19人）
④アウトリーチに興味があったから（8人）
⑤その他（19人）
・子供に童謡を聞かせたかった
・施設よりお誘いがあったため

- ・子供も入場できる
- ・子供に聞かせたかったので
- ・音楽、クラシック、演奏会が好きだから
- ・家族で音楽を聞きたかったから
- ・施設で暮らしている母の気晴らしになればと思い、また、私自身興味があったので
- ・去年も来て良かったから
- ・子供に生の音楽を聞かせたかった
- ・音楽が好きなので。高齢のひとり暮らしですが心が和みます。

[4] その他

- ・また聞きに参ります
- ・すごい演奏、歌声に心洗われた楽しいひとときを過ごさせて頂きました。ありがとうございました。
- ・アカペラがとてよかったです。ピアノをもう1回聞きたかったです。子供が知っている曲(第2部)がもっとあると良かったです。ふるさとの歌が好きなので最後に聞けて嬉しかったです。
- ・地域の人たちにこのような機会を与えてくださっていることがいいと思います。ピアノあり、リコーダーあり、アカペラあり…いろんなジャンルがあって、本当に楽しめました。一人でやるのもいいけど、みんなで演奏するっていうのは楽しいですね。ありがとうございました。将来は音楽の先生になるのですよね。子供たちに音楽の楽しさを伝えてほしいと思いました。
- ・会場案内や演奏の合間など、若い皆さんの清々しい対応がよく、良い時間を過ごせました。「小さい秋みつけた」のアカペラを聞いてみたかったです。
- ・何でもいいが楽器の演奏をもっと聞きたかった。ピアノをもっと聞きたかった。美しい名曲やディズニーなどの映画音楽も好きです。音楽を通して、音楽の素晴らしさを人々に伝える活動にとっても共感した。
- ・子供が歌を好きなので機会があればまた来たい。子供なら子供だけにした方が少々うるさくても気をつかわずいいのですが…。
- ・来年はドレミのうたをお願いします。
- ・普段、生演奏を聞く機会がないので、生の音を体いっぱいあびることができた
- ・演奏会をもっと増やしてください。楽しみにしています。
- ・いつの日か、国内・国外で大きく羽ばたいてください。
- ・表情がかたい。本から目をはなしても歌えるでしょう。そうすればもっと素敵。
- ・大勢で歌うと聴きごたえがあると思った。
- ・リコーダーオーケストラの各楽章についてイメージの雰囲気話をしてもらえるともっとイメージが膨らんで楽しめる
- ・トーンチャイムの音が心地良くて癒された。童謡もアレンジが素敵だった。
- ・ラフな衣装で、幼児向けの歌もいいでしょう。
- ・トーンチャイムは初めて聴きました。ジーンとしました。

8. おわりに

以上のように今年度の活動を追ってきたが、この間確実に学生たちの技は向上していることが明らかになった。その技は、演奏技術のみならずそれを応用する力や段取り力、チーム力といった社会生活上必要な力へと拡張してきている。学生たちの今の實力では、「学びに熱中する子どもの育成」にまでは及ばないが、この経験を積み重ねが教員としての資質向上に結びつくことは間違いない。アウトリーチ活動を支援する教員側の体制も厳しい状況ではあるが、学生の自主性を尊重し地域からの要望に対して応えられるよう、出来る限りの努力を続けていきたいと考えている。